

### **3. 市長等意見に対する事業者の見解**

### 3. 市長等意見に対する事業者の見解

本事業における環境の保全及び創造の見地からの意見を有する者の意見書が3件提出された。また、本事業における環境影響評価方法書に対する市長意見が、平成27年5月19日に示されている。

市民等の意見に対する事業者の見解を表3-1(1)～(2)、市長意見に対する事業者の見解を表3-2(1)～(3)に示す。

表 3-1(1) 市民等の意見に対する事業者の見解(1/2)

市民等の意見	事業者の見解	記載箇所
<p>(1) 方法書では、供用後の自動車の走行が評価項目に選定されていませんが、供用後の車の渋滞は大きく環境を損ねます。供用後の交通量の増大により周辺の交通渋滞がさらに悪化することを防ぐため、以下の内容を要望します。</p> <p>都市計画道路宮沢根白石線を、仙台市の現計画のとおり、西へ直進して根白石地区と結んで整備をすること。開発区域内の都市計画道路である根白石線の上田起点と、北山実沢線の実沢広畑終点をつなぐ道路の整備が実現するよう、根白石地区住民と三菱地所が仙台市に働きかけること。新設道路の整備並びに主要幹線道路の改良工事、及び交通渋滞を回避して車両が進入している既存の市道、農道の改修工事を実施すること。</p>	<p>供用後の自動車走行に伴う大気質・騒音・振動等の影響については、「資材・製品・人等の運搬・輸送」として項目選定を行い、その中で予測・評価しました。いただいたご要望に対する事業者の見解は、以下のとおりです。</p> <p>今回新たに事業計画を策定するにあたっては、開発事業と自然との調和を図るべく、対象事業計画地の中央に位置する尾根の大部分をそのまま残し、自然を取り込んだものとししました。そのため、対象事業計画地内の道路については準備書に記載した線形への変更を考えております。今後、仙台市との協議を経て確定していく予定ですが、いただいたようなご要望があることを、事業者として認識いたしました。</p> <p>、対象事業計画地周辺の道路網につきましては、環境影響評価手続きにおける事業者の見解としてはコメントを差し控えさせていただきます。</p>	<p>8.1. 大気質 8.2. 騒音 8.3. 振動</p> <p>1.4.3.土地利用計画</p>
<p>(2) 工事中及び供用後に、土砂汚泥が新堰水路および銅谷水路に流入しないよう注意してください。</p>	<p>工事中の対象事業計画地内の雨水排水は、一部を新堰水路および銅谷水路に放流する計画です。対象事業計画地内に設ける仮設調整池及び仮沈砂池で土砂を沈降させ、水の濁りを抑えた上で放流することで、両水路への影響ができるだけ小さくなるよう配慮します。また、両水路を含む6地点の濁水の濃度を予測し、工事の影響について評価しました。</p> <p>供用後の対象事業計画地内の雨水排水の大部分については、八沢川または新設排水路を経由して七北田川に放流することとしており、法面排水の一部を両水路に放流する計画としていますが、法面を緑化することで、両水路への土砂汚泥の流入は小さく抑えられるものと考えています。</p>	<p>1.4.5. 排水計画 1.4.8. 防災計画 1.8.3.工事管理計画</p> <p>8.4. 水質</p>

表 3-1(2) 市民等の意見に対する事業者の見解(2/2)

市民等の意見	事業者の見解	記載箇所
<p>(3) 開発地区は根白石中学校に近く、また市道上田桐ヶ崎線は、児童生徒の通学路や生活道路として使用されておりますので、工事期間中の砂ほこり、道路の汚れ、騒音のなきよう充分留意して下さい。</p>	<p>根白石中学校や対象事業計画地周辺道路への工事期間中の砂ほこり、道路の汚れ、騒音については、地域住民の皆様にご迷惑をおかけしないよう配慮してまいります。また、工事中の大気質や騒音・振動の影響について予測・評価を行い、その結果は工事計画に反映しました。</p> <p>なお、工事用ルートの一部は、児童生徒の通学路や生活道路として使用されているため、工事車両の整備・洗浄の徹底により道路への土砂流出を防止し、登下校時には特に安全運転・通行速度の遵守に努め、粉じん・騒音・振動の発生を極力抑える計画とします。</p>	<p>1.8.3.工事管理計画</p> <p>8.1. 大気質</p> <p>8.2. 騒音</p> <p>8.3. 振動</p>

表 3-2(1) 市長意見に対する事業者の見解(1/3)

市長の意見	事業者の見解	記載箇所
<p><b>1 全体的事項</b></p> <p>計画地内に新たな幹線道路を整備することにより、周辺の道路ネットワークに大きな影響を及ぼす可能性があることから、供用後の道路交通量を予測する際には、計画地からの発生集中交通量に加えて、交通経路の変化に伴い生じる計画地内の通過交通量についても考慮するとともに、歩行者等に対する安全性に配慮した道路計画を検討すること。</p> <p>また、より正確な発生集中交通量を予測するため、最寄り駅からの距離、標高等の区域特性が似ている紫山地区の交通利用状況を把握し活用すること。</p>	<p>供用後の道路交通量については、仙台市の交差点交通量調査結果や平成 26 年に実施した紫山地区の交通実態調査の結果等を活用しながら、対象事業計画地からの発生集中交通量に、交通経路の変化に伴い生じる対象事業計画地内の通過交通量を加味して予測を行いました。</p> <p>これらの予測結果等を踏まえながら、歩行者等に対する安全性に配慮した対象事業計画地内の道路計画を検討し、その内容は環境影響評価準備書に記載しました。</p>	1.4.3.土地利用計画
<p><b>2 個別事項</b> <b>(大気環境)</b></p> <p>(1) 本事業により、自然緑地がアスファルト等で覆われることや交通量の増加等により計画地周辺の気温が上昇し、光化学オキシダント濃度が高くなる恐れがあることから、気温上昇の抑制に対する配慮事項を環境影響評価準備書に記載すること。</p>	<p>存在による影響の「樹木伐採後の状態」における「大気質(その他)」を配慮項目として選定するとともに、気温上昇の抑制に対する配慮事項を環境影響評価準備書に記載しました。</p>	9. 配慮項目の概要と配慮事項
<p>(2) 重機の稼働による建設作業騒音については、周辺住民との環境コミュニケーションの観点から、時間率騒音レベルに加え、等価騒音レベルも予測すること。</p>	<p>重機の稼働による建設作業騒音の予測結果には、等価騒音レベルも記載しました。</p>	8.2. 騒音
<p>(3) 供用後の自動車走行に伴う騒音は、計画地周辺の沿道のみならず、計画地の最寄り駅である地下鉄泉中央駅付近にも影響を及ぼす可能性があることから、既往のデータの活用等により当該場所への影響を予測・評価すること。</p>	<p>既往のデータの活用により、本事業の供用による自動車交通の増分に伴い生じる泉中央駅周辺での騒音影響について、可能な範囲で予測・評価し、環境影響評価準備書に記載しました。</p>	8.2. 騒音
<p>(4) 道路交通騒音の影響については、騒音規制法に基づく自動車騒音の要請限度ではなく、原則、環境基準により評価すること。</p>	<p>道路交通騒音の影響は、原則、環境基準により評価しました。</p>	8.2. 騒音

表 3-2(2) 市長意見に対する事業者の見解(2/3)

市長の意見	事業者の見解	記載箇所
<b>(水環境)</b> (5) 供用後の生活污水の排水計画を環境影響評価準備書に記載すること。	供用後の生活污水は、仙塩流域下水道に接続して処理をする予定であり(既往の開発許可では同意取得済み)、排水計画を環境影響評価準備書に記載しました。	1.4.5. 排水計画
<b>(土壌環境)</b> (6) 計画地内には土砂災害危険箇所が存在すること、また、地球温暖化の進行に伴い仙台市域においても集中豪雨の増加が懸念されることから、土砂災害対策については、常に最新の基準等の情報を収集の上、自然環境や景観への影響に配慮しつつ、慎重に検討すること。	土砂災害対策に関する最新の基準等の情報を常にキャッチアップしながら、慎重に事業を進めるとともに、斜面の安定計算等により安全性を確保した上で、植生により保護された法面として整備する等、自然環境や景観に配慮して、斜面等の安定性向上を図るよう努めます。	1.4.8. 防災計画 8.6. 地形地質
<b>(植物、動物及び生態系)</b> (7) 平成 12 年時の環境影響評価における現地調査結果(以下「平成 12 年調査結果」とする。)によれば、本事業により埋め立てられると計画されている沢部には希少な植物や水生動物が確認されていることから、現地調査結果に応じて適切な環境保全措置を検討し、その検討経緯と合わせて環境影響評価準備書に記載すること。	今回新たに事業計画を策定するにあたっては、開発事業と自然との調和を図るべく、極力多くの樹林を残地することを目指すとともに、工事用車両の走行に伴う環境負荷を回避・低減するため、可能な限り切土量と盛土量のバランスをとることを目指しました。その結果、対象事業計画地の中央に位置する尾根の大部分をそのまま残し、自然を取り込んだ計画としましたが、ご指摘の沢部は、全体の土量バランスや住宅地面積の確保を考えると、そのまま保全することは難しい状況です。 ただし、残置するエリアには尾根部のほか、北東側には沢部も含まれる予定です。本事業で埋め立てられる沢部において、現地調査により、注目すべき植物種や注目すべき水生生物が確認されたため、残置する当該沢部を活用することを含めて、環境保全措置を検討し、環境影響評価準備書に記載しました。	1.4.3. 土地利用計画 8.7. 植物 8.8. 動物 8.9. 生態系
(8) 植物の現地調査にあたっては、方法書に示された踏査ルートを基本としながら、その周辺についても平成 12 年調査結果や現況の植生状況を踏まえて調査するとともに、水生植物群落の調査地点として計画地内のため池等を一箇所以上設定すること。	植物の現地調査にあたり、方法書に示された踏査ルートを基本としながら、その周辺についても平成 12 年調査結果や現況の植生状況を踏まえて調査しました。また、主要なため池において水生植物群落の調査を一箇所以上行いました。	8.7. 植物

表 3-2(3) 市長意見に対する事業者の見解(3/3)

市長の意見	事業者の見解	記載箇所
<p>(9) 植生調査の結果、ススキ群落等のまとまった草原環境が確認された場合には、多くの動物が生息していると考えられることから、必要に応じて当該環境に哺乳類の捕獲調査地点及び自動撮影調査地点並びに鳥類定点センサス調査地点を追加すること。</p> <p>また、カエルの生息を確認するため、夏季の夜間調査を実施すること。</p>	<p>植生調査の結果、平成 12 年 3 月評価書において確認された対象事業計画地内の西部のススキ群落はコナラ群落となっており、ご指摘のようなススキ群落等のまとまった草原環境は存在しませんでした。一方、方法書において哺乳類の獲調査地点(T3)及び自動撮影調査地点(S3)並びに鳥類定点センサス調査地点(P3)として設定した地点において、植生調査の結果、平成 12 年 3 月評価書において確認されたススキ群落の広さはないものの、比較的まとまりのある草地環境が確認されたため、同地点において、草地環境の動物の生息状況を把握するよう努めました。</p> <p>また、カエル類を対象に、夏季に夜間調査を実施しました。</p>	<p>8.7. 植物</p> <p>8.8. 動物</p>
<p>(10) 計画地は、動植物の重要な生息・生育地である「根白石（朴沢、実沢、福岡）地域の里地・里山植生」及び「泉ヶ岳から根白石への緑の回廊」に含まれており、供用後の人の居住・利用により同地域の植物・動物・生態系に影響を及ぼす可能性があることから、配慮事項を検討の上、環境影響評価準備書に記載すること。</p>	<p>「人の居住・利用」による当該地域の植物・動物・生態系へ及ぼす影響について、配慮項目として選定し、配慮事項を環境影響評価準備書に記載しました。</p>	<p>1.4.3.土地利用計画</p> <p>9. 配慮項目の概要と配慮事項</p>
<p><b>（景観）</b></p> <p>(11) 仙台市「杜の都」景観計画を踏まえた景観への配慮方針を環境影響評価準備書に記載すること。</p>	<p>仙台市「杜の都」景観計画を踏まえた景観への配慮方針を環境影響評価準備書に記載しました。</p>	<p>1.4.6. 景観計画</p> <p>8.10. 景観</p>
<p><b>（自然との触れ合いの場）</b></p> <p>(12) 計画地の中央に残置する自然緑地を活かし、住民が身近に自然と触れ合うことができる公園整備を検討すること。</p>	<p>対象事業計画地の中央に残置する自然緑地を活かし、住民が身近に自然と触れ合うことができる公園整備の検討内容を環境影響評価準備書に記載しました。</p>	<p>1.4.3.土地利用計画</p> <p>8.11. 自然との触れ合いの場</p>
<p><b>（温室効果ガス等）</b></p> <p>(13) 自然環境を開発することによる代償措置として、温室効果ガス削減に資するスマートシティ等の新たな取り組みを検討すること。</p>	<p>スマートシティ等の環境技術については、その取り組みを定量的に環境影響評価の予測・評価としてお示しすることは困難ですが、温室効果ガスの削減に資する取り組みとして、住宅への HEMS、EV 対応設備、太陽光発電装置の導入、マイカー利用の削減を図る交通システムの導入などを検討し、その内容を環境影響評価準備書に記載しました。</p>	<p>1.4.7.エネルギー対策計画</p> <p>8.13. 温室効果ガス等</p>